花つみ

元禄七年の春母八十五
歳にて病死しける時
悲哀堪たきこと多すり
きれを思ひ出せば是をよせてい
心さし浅からぬ向ひしうを彼
祇五乃一七七の日ゆゑ有合
うしまつれ申し侍山の情を

[illegible]れたる物法論讃佛
事の[illegible]とのみあるを
[illegible]しさ我ら数多の人の
[illegible]おもく御[illegible]
かるつく一こゑ百句よみちらせる
花摘と名付侍る也その日を
夜の[illegible]年の句と結縁と[illegible]
[illegible]句[illegible]

[illegible]人[illegible]
高位[illegible]師弟[illegible]
[illegible]八日記[illegible]

一燈記　真角述

八日　上行寺

灌佛や墓[illegible]
帰る[illegible]
三[illegible]

[illegible]はあなゝ如[illegible]
母の[illegible]　彫栄

九日　ひゝ〳〵隠士鑵山を名ゝし　角
　　僧釣雪　ゆきのつり
　　ゆきのつり

式部日記　桐の花　羽黒　露丸

十日　宗竹のもとにてさとし
　　みまほしきもの　思ひ
　　やまとのうりへ
　　ものいふ

十一日　松いろ志ほん汗拭　角
　　ゆきのつり　一ちやうはなし
　　郭公中人ものぐるの色集　同

三月十一日七日の念仏
　　清水寺
　　一向のこゝろをとりて
山ゆかんとしてゆの色向ひ　行角
非時を悟るもの粥　雪　嶋水
　　二つ
十二日　東叡山院
僧正のまてさしく　栗栖　角
十三日　仏　城　精をの調　同

十四日　浅草川遊

[illegible]　角

十五日　雨

紙念仏　同

十六日　黒牡丹初咲　大雲

十七日　[illegible]　同

十八日　雨

山樹実　秋色

底白　[illegible]　[illegible]

十九日　自慢

白鼠石黄　角

施[illegible]　同

自棄

下帯　土田玄素

辭世

夢なれや花ハ明日の春の風　由良　正春

廿日

身をかくし翠羽織とうき世かな　角

射者ハ中リ奕者ハ勝ツ

廿一日

蠅打し何連日あらぬ點心　同

癖迄はいよくひらく牡丹かな　尾　智月

妻こふて人やとがめん寺の猫　同

蕣や[illegible]へしほむ姿かな　左　さつ

廿二日　佛骨表

甚しくハ蠅と打けりうんぷりし　角

申の日とて物忌すゝり

廿三日

夜すがらや蚊帳の中心を入る香　同

伊勢よりのぼるみやげにうれしき

我妻の汗にあらはれるもめんかな　久居　紫雪

物ほしげ扇ハ見てし渡舟　揚水

縄さげて心を常かそしの　全峯

閑居　ちつけるかりいほ
いそのもの世の
草ゝもかれぬるこゝろ
教忠のうしとて

我世とは何とのゝ入り招極（ヒロチ）　上宅
山境ゝ家に松ゝる暮ゝ　伊賀　兎口
心ゝ雨ゝ降ゝ過ぐるあし木を　同
桃の花ぬれぬるあめ犬のあし　同　野狐
見る日を頃る桃の雲ゝ　同　知津

廿四日　宗長ゝ句をとゝて

廿五日　奉納

牡丹芳ゝ咲ゝ過ぐる白ゝ　僧　蕉文
ゝゝ衣湿ゝ彩ゝ杜ゝ　角
一時も今この知月價ゝ　由水
仲春　菴　昼臥

蛙鳴ハ武蔵のゝ中に菴ゝ　琴風

庵丁ら牛何とさく

さくらの鱠を　主水　百里

能城や能城をんる夕涼　同

廿六日　今盥

交乃さめく赤色　亥料理　角

廿七日

短冊や新日作らの納屋の　同

膳所くゆくゆく

秋(カハラウ)の来てまるる浦田のかく　翁

廿八日　ある人のお墨く

内川や作るのくる巣の蛙　角

日月深る飽く翁と鄙の

野の羽黒山於本坊奥

行のの山をもしく

元禄二年六月

夏籠や雪をめくらんの音　翁

信濃なる人のむすの高草　露丸

川毋の縄(ツナ)を蛍を引きく　曽良

鵜の乗るまんのる　三日月　釣雪

沈める天とうくる妹の音　殊妙
山もとゆもこもめる所り　梨水
眠てもて昼の陰（カケリ）なるて　釣雪
百里の孫を木曽の牛迄　翁
山てんの城の記と書し　房丸
茅おそくむ神木の森　曽良
あくみの孫ひとり孫なくて　釣雪
豆うるを兵衛と啼く鬼　露丸

古市所をさるなしる　捨子曽　翁
糸よ立ぬ桜ちる　くの萩　京水
月見よと引起されて耶　北　曽良
髪あしがれる羅（ウスモノ）の裏　翁
月見台犬のかぶる　花折て　露丸
的場の赤と嘆る山　釣雪
十
ちを浴しもの手の力石　翁
海くいくく醒の井の水　房丸

足引のこしもとも○裏　圓入
敵の門は二枝折り　そら
かくれる家を明るのの　露丸
妻こうしいるる山犬の　海
うしろ者は橡の枯葉の上寒く　梨水
湯の香ゆくを旭林　房丸
融の者と伺る者を矢をたさく　釣雪
篠ふけ　ゆる夜の法の　囚入

名山の嵐の色を骨にしむ　雪良
波治の火のうしろ電の乳　梨水
ちるうの梧の枯葉　房丸
なるよりくの片蔭の窓　釣雪
盗るつまこの妹の身を庇く　翁
祈をこもる地蔵の補　曽良
盃の音の流れもの陰　會覺
幕うちもるる燕の巣　梨水

湯殿

[illegible] 月山 同

[illegible] 月山 同

[illegible] 月しゝ山もり

[illegible] 賤しさよ 文の雪 鈞雪

廿九日

[illegible] 風情 張国 角

壬二集

五月朔日 さゝなれとさはやかなる [illegible]

[illegible] 心せく節句前 角

[illegible] 影堂

[illegible] 溪石

[illegible] 雅の

[illegible] 雅の色 角

[illegible] 雅のひとふし 去来

[illegible] 雅の尾もさくさはの草ゆ 秋色

蘭説 [illegible]

落穂舎去来稿

嵐く暮ニ出テ朝カクル家ニ居テ
人ヲ恐ルヽハ呂ノウラニ疵持ケラ
レ山椒ノ眼ハ豆ノ鼻歯ハ糸ヲ付テ
小袖ヲ縫ヘノ耳ハ木葉ノ芽ニ似
タリ地黄ヲノ喰ヘハ毛白ク大束ラ
噛ハ口毒マーリ尾ヲ切テ雛ノ鞘ト
爲ハナレテシ背腹ノ色ニ月出テ薄キ
濃リモ浮出セリ被カフリタル姿ノ若
ナルハ麝入ノ繪虚言ナラニ筆ノ用ニ
鼈ヲ拔ルハ老テノ後ノ悔カ顔ノ
鳥獣ワキタルハ畫嵐ナレハ成ヘシ
ほく〳〵沸タル徒と思へ沸と存事
世の酒ヲひ〳〵れ九仞ノ滝ヲ
とんヲ栗とられ器と被さハ
沸文ノ〳〵合傳ノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何ゾ徧ひてう侍人の例るらしまうる

[illegible]書を燒世の宰相とおもへん

神仏の貴き尿うるを穢うるを汚きを

[illegible]地獄[illegible]の罪を曾て[illegible]

[illegible]日の[illegible]と年おるもう

[illegible]

ツリく御身カ貴ヲ思ヘハ牛ハ[illegible]ト

ク虎ハ心猛ケレト下坐ニちニリ百敷ノ

賢キ一モ用テ子ヲ迎ヘテ年ノ号ヲ改

玉ヲノ脊をカヘル遊ニ子日ノ御賀カ

リて祭ト申スイワノ時ヨリハマリケノ

ン藻ノ俳ノ歌ニモ洩レス淵泉ヲ藻

塩ノ陰ニ住ム海鼠林飛ル尾もが

来る嵐ハ朝ノ人ハ野嵐トシ
夕ハ侍ル麝香嵐ハシラヌヒノ筑紫
ヨリ外ニハカズ天井嵐ハ雷ヲ鳴リ
トコノヒ義ヲ七郎ハ申シ新龍門
ト名乗ハ月代剃テノ事ナルヘシ
大子等子ヲ笠ハ月ヽ十二
ノ子ヲ産風ヽザノ扇骨バカリ
雞カ家ニ取尺ヽ得ニモシ白嵐冬ヽテ

福ノ神ノ使センモシレス
つゝ清ゲ発を思ハ嶮しき
城と形て笠も籠もとしもく
謀ふりん老と見て痩小烏
ゆゝしんゝ乳ゆ
いとあるもの蚩木汁
吹矢ヲ菊作ルもの青ハ
うゝ吹嵐ぬき嵐精ハ

武八幡を頼(タノ)み奉りて
さとるかつるも又毋のさへ拾
きん西ものの老法師ちんもはん
ぢまそけんづ法師こゝさん師
ゆゆせなを道とるまれてはう
ゝぐしかゝ(ソラ)ゝ犯して命を
東坂の袋逃(ニケ)れも生擒(イケトラ)なな
ゆゝいて張湯の文を耳称し

悲しきを狐(ニヤリ)狸の命とんとて焼
嵐よりあるを消ゆまし梁を
桁(ケタ)走(ハシリ)障子の障子の業(ワザ)なるを
思い供(ツカ)はかりくもるれも
なぬるの書あるひるもひるの
思ひ知らんん

御身カ隠レ星何レノホトリソ武蔵
二嵐穴大比叡ノ禿倉(ホコラ)ナルカナド

カ帰ラサル頼毫ガ勢モ本意ト
デカタシ猫ヲハムノ譬モ不善十
ラハ成得シ彼ヲソロシキ睡上ト世ニ
相住セシハ面白カラヌ浮世ゾ
面掛ヲ色つる栗の嵐哉
いつをひつの孫びく
つくつくつくつくつくつくつくつく
あつあつあつあつあつあつあつあつ
百句のけちをんなとく
歩集ヶ次ぎなり

二日　ものもの城中の庫の内　角
三日　信濃くまの　鶴の鳴く
卯日　梁の鶴を送りたるの上　同
午の刻　午の日むまの日
午の刻　入
競る塚　入月のいさみ　同
日
有卦の笑の雛ぐ酒　百星
雨ありてくく人人
多くりする日書改

元日は好晴にして梅の花　素見

小蝶（コテフ）喰（クヒ）ふ心もとなきふつつかさ　蘭上（近江）

春風や辻宮の明る朝　枳風

名の知れぬ所うれしき山さくら　湖春

明るとけぶる夜立の雲と　渭橋（盲人）

梅ゆゑ捨て裏の明る雲　晴雲

松ばらの花の咲ぬる所　巴風

木下ゆ計も賸也　横斧　翁

東廊山行　佛路通

大佛こうしらうと花の雲　玄来

一昨（ラトヒ）ハ旬の山越つ郡雪

こうりうの咲けり安心寺衣　大津　尚白

心衰

明るまで親鸞ゆかし　幽也

草の戸念佛の間も有ぬ　三角

雇人（マトヒト）の寄あいらうの男へ外　加賀　一笑

物代と婚るいとん親猪　巴風

御河とり流す一つまつ　仙　文鱗

炉辺の巻　芭蕉　加生

供陸の鯛と流し流の笠　珍夕

キハ
蹲踞なる何ひ近江の蕎麦　尚白

畑打ち青麻　扇

人の窓ふ弁ひ杖の　由之

八尾御門主

六条也　蕭　所乱　風喬

しなひ寄ふ鬼灯　猿の自　沾荷

用明陽軍鑑を

旬ふ　ぐの信濃の武士　去来

いせの出中村　よりの所

炉の伊勢の墓原　翁

旬ふ　扇の　松風

九月の安芸

菊の　いつくの　同

如し　誕　木綿なぐ　尚白

雨後

筆ひけ　水　山川

[illegible]

ならぬ　御迂宮　翁

雪の[illegible]　いつ大佛の尾瞽　同

水鳥のくぐるあいづ宮　揚水

[illegible]　霜　金峯

いさかい[illegible]　所之　翁

雪の[illegible]　仏殿の薪　僧　宗流

[illegible]

[illegible]　僧　[illegible]

[illegible]　桐　几圃

[illegible]

[illegible]　桃園

何[illegible]　[illegible]の衣配　野徑

[illegible]　翁

[illegible]　訓蚩近之墨糟也

駑入競馬之蜂畢

花[illegible]　角

樗佩(オビ)へわざとやり芝青　嵐雪

[illegible]の[illegible]　溪石

撓(クレナヅ)る用の[illegible]　紫雪

六月

止渡浦より

[illegible]　角

[illegible]　溪石

[illegible]　百里

[illegible]　是吉

七月

[illegible]　山川

解て忘る

[illegible]　角

[illegible]　巴山

[illegible]　同

[illegible]　同

八月

得二正観音像一

[illegible]　角

若八幡宮の門先の夜花　宣則

桜樹の紅葉やる　初いちご　同

九日　雨

夢とうすく立て雨　角

てり曇る月いつまぬよ　鶴か　泊荷

蘭の花ちとてうすく　陳　同

好物

入歯くん安や瓜畑　三翁

贈芋屋

うつ豆香や法十もせ　草物　し

山菅のひかりや粽　同

蓑の木の中るうハ　桐の毛　同

ぬるみもころぶてめ　西瓜　少年　亀翁

雛をくるの花ちくく　女か　同

いさ中に乳や立生よつく　星祢子　同

十日

三笑といひ出かくいのこの

住ぶ徒る袋すり　俳資つ　仙

元かしらを張りたるさま
よしをりて高りなる其
笹のおもてをうつくしいやし
き土の車の林の蔭より
月をうめしめるまと書
いうなる風をうくなれるさく
ようのもんの巻の奥書
にしつつまる

あるはいう非人貴　麻蓮　角

梅の香やうの食のあるをやはし
つるなしひきをあるやうの
功徳をうけ給へ

若木をとらるる習ひ　山川

炭焼いもくの煙の車　崔雨

孫人の朝ぼらけの屠蘇　横几

その実とあるも忘れぬ　春夏

一志うり底くうりの苟れ　松翁

祈るべハ咄る遠き火鑪　同

十二月

絶景

丸月雨や富士の焼の其像　八菊

志ぐるとう敬ひても拝めば　治荷

あの蟬の声をあつめて斎の石　治竜

かなしさ蘭の芽を摘ませる　牧童

田舎の法名をひとつ　梅雪

春日

和々やさ松の林を日の光と

上原も青柳の芽を新斎の焼

大文論寺　墨染の猶ほとゝる茶摘かな

多武峯　剃捨てもよかりしかひしるし

芽ぶかぬ竜田の外の楓かな

十二日

さみだれの雲を出ぬべ　角

十三日　岩翁亭題送蟬

みじか夜の隙へとゝる蟬の足　同

帰る夜の蛍　岩泉

湯の花のたゝぐ蔭かな　同

明る草しよはたのたゝぐ蔭かな　同

同美濃　筆ぬるむ　遠水

十四日

枇杷の葉の[illegible]角ふさ蟷牛　角

形ちすけの枇杷の葉ぶり　岩翁

女ぶり[illegible]肩なく長郷[illegible]　同

言種と小菊の角で狗茄子　筑蓬　松嵐

十五日

[illegible]粉[illegible]花ぶり夕月郷　角

郭乃蔦二ツのくい乃[illegible]　浪　三ケ

仁和ちるまく

門ぶいあとすりとしてもとり　同

十六日

[illegible]の梅千けるとして

梅いろつ岡伽の杉まる玉兎　角

十めり[illegible]ぶり銭

蛍ちり[illegible]数ん社恩　[illegible]

用しく[illegible]

[illegible]の色もて[illegible]　同

十七日

[illegible]の杜国例なりて

[illegible]を詠へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

羽[illegible]

角

十八日

[illegible]

不死の[illegible]

十九日

日[illegible]

夕涼　同

[illegible]

廿日

[illegible]

同

廿一日

[illegible]

髪剃[illegible]

角

市[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

旅人[illegible]

治濟

[illegible]

百生

[illegible]

[illegible]

氷花

[illegible]

[illegible]

夜讀書

梨水

蚊をすかせまくらもとに本の音　角

九三日　露沾のさみ
能奥行

月のかけてく酒呑もるで　清水鬼　同

九四日　孤之人をあそれこそ

家ト場を園はさるのあるる　同

九五日　義叔讃

傘（カサ）の蝶蓮（バス）を蛙　同

九六日　山田昌悦亡

汗ぬぐひ衣の背ぬひのゆがみなり　同

夜舟興

管すぐ橋より覗く茶の匂ひ　巴山

又の葉ちくらしよ

夏衣つかんん老の腹　同

九七日　湯の木賀をうしろ

蟬の鳴くあつる柳　角

木曽川の材の待ぬ　山川

120

元八日　井手のうみあらし
　　鶴のわたりをあはれとや
　　なつやしらん

　　鶴の長

　　清らを流れ

廿九日　舟興

　　東の後四つまりいなの花

　　同

一夏半尽

裏の摘くり片枝葉の多き

　　樵うまの

山川

上州十三